

中学校給食実施請願者との意見交換に伴う意見

- この請願後、設置された中学校昼食等検討委員会での議論・進捗状況がわかり難かった。今日この場を持っていただいたことには、感謝している。
- そもそもこの請願は、中学校における完全給食の無い状態が全国的には少数派になることを知り、京田辺市においても完全給食を実施すべきと思い、動き出した。
- 家庭弁当は、作るときに栄養バランスに気をつけているが、かける時間などから自ずと限界がある。早急に給食の実施を望む。
- 弁当は汁物が食べられない。温かいもの、冷たいものを適正な温度で食べられない。
- 冷凍食品などをとりあえず弁当箱につめていただけといったケースもある。子どもにとっては一番の成長期なので、せめて給食だけはちゃんとしたものを食べさせたい。
- 請願を求めた際、働いている保護者を中心としたものだったため、弁当を作るのが大変との意見が多かった。
- 本音として、保護者の負担感が最も大きい要因だった。
- 給食は嫌いなものが出されていても、友達が食べていると食べてみようとなるなど、好き嫌いをなくすきっかけにつながる。
- 今の弁当による昼食の時間でも本当に短い。給食になるとどうなるのか不安も多少ある。
- 給食は、みんなと同じものを食べることができ、毎日の給食で学ぶ食育は大切。
- 学校の家庭科や保健体育での教え方も十分とは言えないと思う。
- 地元産の食材を使った給食は、食育の観点からも意義がある。
- 給食には、栄養バランスと食材のチェックなど食の安全が求められる。選択制の弁当であっても同様である。
- 親が風邪をひいて作れなかったり、急用が出来た時などのフォローをしてもらえるとありがたい。
- 諸般の事情によりデリバリー方式の選択弁当となったとしても、第一歩としては評価できる。ただしこれで完了ではなく、将来的には給食についても検討を続けてほしい。
- 個人差・男女差が大きい年齢なので、量的に選択できることを希望する。
- たとえ選択弁当であっても、市の栄養士が関与した、食材についても安全性が確保されるなど、工夫されたものを望む。